

2022年度 学校評価（自己評価・学校関係者評価）報告書

学校法人 愛真幼稚園

1. 本園の教育目標

幼子が神から与えられた自然の中で、「遊び保育」を通して、豊かな感性、観察力、創造性、社会性を身に付け、成長していく手助けをする

2. 本年度の重点目標

健康で安全な園生活を保障する

3. 評価項目の達成状況および取組み状況と結果

評価 A: 達成している B: 一部達成している C: 一部改善を要する D: 改善を要する

評価項目	評価	取組み状況・結果
園児の自発的な遊びの中で、危険予測を身に付ける保育を展開する	B	園児一人一人の運動能力や体力を見極めて遊びを見守り、日常の園児の遊びから想定される危険性を教師会で検討して安全対策を施した。園児が他の園児の危険に気付き、自分の安全にも気をつけようと思うようになった。
屋外でのびのびと安全に遊べる環境を作る	B	園児の発達段階に応じた多様な遊具等を園庭に設置し、その破損や不具合を定期的に点検した。園児が園庭にいる時は複数かつ充分な人数の教職員で見守った。園児が園庭を思い切り走り回るなど、友達と一緒に運動したり、新たな遊びを工夫したりするようになった。
山や川、畑などで自然に親しみ、健康な心と体を成長させる	B	自然に親しむ園外保育を多く実施した。複数の教職員で必ず下見を行い、注意が必要な場所については写真や動画で情報共有するとともに、対策を含めて保護者に事前に周知した。園児が園外保育を楽しみながら自然に対する興味を高め、逞しい心と体が成長した。
感染症対策を徹底し、日常の健康を守る	B	内科検診など各種検査や身体測定等を実施し、登園時の体温測定など体調管理を徹底した。感染症対策として、マスク着用や手洗いを徹底し、室内や遊具を頻繁に消毒した。園児が衛生を意識するようになり、自発的に手洗いやマスク着用に気をつけるようになった。
家庭との連絡を密にし、園での様子を情報発信する	B	園児の体調不良やケガ等はわずかなことでも保護者に連絡した。また、スマートフォンアプリを用いて家庭への連絡をこまめに行い、園児の様子を写真や動画で配信した。園での様子に保護者の安心感が得られ、家庭とのコミュニケーションがよく図られるようになった。
園バス通園における安全対策を徹底する	A	乗車確認名簿を用いて園児の乗降を確認し、出欠等を担任や教職員と情報共有した。園バスに車内外モニタ等を設置し、運行状況をリアルタイムで保護者に伝えた。園バスとの連絡や確認がしやすく、バス停での待ち時間が短くなって、保護者の安心感も高まった。
園の安全管理体制を充実させる	A	危機管理マニュアル等を整備し、継続的に見直した。ヒヤリハット事例は直ちに情報共有し、職員全員が安全管理研修を受講して改善点を話し合った。ヒヤリハットの発生頻度が低下した。園児の体調不良等への教職員の対応がスムーズになり、安全意識も高まった。

4. 総合的な評価結果

評価 A: 達成している B: 一部達成している C: 一部改善を要する D: 改善を要する

評価	理由
B	健康と安全に関する上記7項目について評価を行い、改善すべき点を見出した。教職員の研修等や日頃の実践を通してさらに研鑽を積み、保育の質の向上を図る重要性を確認した。

5. 今後に取組む課題

課題	具体的な取組み方法
特別支援教育	園内における特別支援教育の体制を整備し、行動分析やアセスメントの結果を教職員で共通理解してチーム保育を進める。
子育て支援	未就園児のためのプレイルームやイベントを更に充実・発展させ、子育て相談など地域の未就園児親子への支援を拡充する。
情報提供	園児の様子や園の状況を的確に情報提供する。個人情報に配慮した情報発信の方法について研究を進める。

6. 学校関係者評価委員会の評価

自然の中で友達と過ごせる愛真幼稚園での時間は子供たちにとってかけがえのないものでした。子どもたちを思い、新たな試みに挑戦しながら、保育内容を工夫していただきました。取り組み状況にもありますように、スマホアプリを活用した園バス通園における安全対策の徹底や園の安全管理体制を充実させることについても大変ご尽力いただきました。保護者アンケートで挙がっていたコロナに関する情報発信についてはプライバシーに配慮しながら保護者の判断材料となる情報を随時提供していただけるとありがとうございます。

学校関係者評価委員

白岩 恵理

学校関係者評価委員

片山 千春

学校関係者評価委員

後藤 三恵子

学校関係者評価委員

藤繩 美加

学校関係者評価委員

木村 昭彦

委員会実施日 2023年2月16日

2022年度 愛真幼稚園学校評価（第三者評価）報告書

本年度の重点目標である「健康で安全な園生活を保障する」といった観点からの評価について、述べさせていただきます。

健康と安全に関する7項目に関して実施された「保護者アンケート」の結果においては、すべての項目において、肯定的評価が得られていました。自然の中で友達といっしょにのびのびと遊ぶことを通して、心身の成長を支える、安全・安心な環境づくりに細やかな配慮、工夫がなされていました。園庭に配置された大きな木々、ツリーハウス、池、多様な遊具などは、子どもたちが憧れ、挑戦しがいのある、素晴らしい遊びの環境だと拝見しました。それらに対しては、想定される危険性を教師会で検討、情報共有されたこと、また慎重な定期点検を重ねられたこと、さらに複数かつ十分な人数の教職員で子どもたちを見守られること、そうした十分な安全対策がとられていました。それらの前提条件があつてこそ、子どもたちの心身の健康を育む環境が作られ、そこで子どもたちが夢中になって挑戦できる遊びが引き出され、たくましい成長を支えられたのだと評価しました。

特に、安全管理体制の充実、スマホアプリを活用した園バス通園における安全対策の徹底については、高く評価します。対策を重ねても事故は起きうることを念頭に置いてとられた、何重もの安全対策は、保護者の大きな安心につながりました。また、スマホアプリを活用した連絡、園児の様子についての写真や動画による配信など、保護者がアクセスしやすいツールによって、家庭との連携を密にされたことも、保護者の大きな安心につながり、高く評価します。教職員が一丸となった見守りの目と、スマホアプリ等のツールとが協働することによって、何重ものセーフティネットとして機能し、今後も、子どもたちの健康で安全な園生活が保障されることを期待します。

（鳥取大学地域学部教授 寺川志奈子）

自己評価・学校関係者評価委員会の評価では、自己批判的に厳しく評価をされていますが、自然に親しむ愛真幼稚園の特徴的な園外保育が安全に充実して行うことができていたことがよく読み取れ、コロナ禍にあっても感染対策にも配慮され取り組むことができていると感じました。また園バスでの他園での事故に敏感に対応され、重点的に取り組まれ体制を整備・確認された点に関しても高く評価できると思います。一方、今回の評価では園児や環境についての評価はありましたが、職員に対する評価がないように思われました。つまり、職員の皆さんのが就労環境や健康に関する評価が入っていない事が気になります。高い理念と顧客満足があったとしても職員の満足がなければ評価は難しいと思われます。働き方改革を含めた労働環境に関する評価も今後是非取り組んでいただき報告いただければと思います。幼稚園にはそれぞれの理念や特色があるとおもいますが、園の特徴でもあり理念の基本でもあるキリスト教教育ということに視点を置いた評価も加えるべきであると考えます。

保護者アンケートについては、多くの保護者が子どもの様子や園の取り組みに満足していることが見て取れます。「概して園の教育方針や保育を信頼している」という結果が良好なのはとても良いことだと思います。またマチコミを用いて、積極的かつ迅速に情報提供していることも素晴らしい取り組みだと思います。一方肯定的意見が多い中で情報不足や情報提供の一貫性のなさを指摘する意見もありました。特に情報提供の一貫性のなさに関しては信頼性を欠く結果となることから十分な注意が必要と思われました。

危機管理マニュアル（教職員の心構え）に関しては充実してきていると思われます。特に社会的に注目されるような事象に対して迅速に対応されているのは素晴らしいです。2021年は3回、2022年も3回と改定をされておられ熱心な取り組み状況は高く評価できます。ただし各々の項目・文章に関しましては関連する法律や行政の担当部署、その出典などを記載しておいた方がよいかと思います。Up to dateな内容となるように絶えず見直し更新していくことが今後も求められるところです。ヒヤリハット報告書や事故報告書などのご提示がありましたら、インシデント報告とその後の対応指針などが少し脆弱であるように感じられました。事故発生時の事故調査体制や対応策検討の手段や方法を具体的に盛り込むべきではないかと思われました。これらはインシデントレベルに従い、その対応方法も違ってくるかと思いますが、それぞれに対応の検討は必要だとおもいます。

園を認定こども園に変更することに関しては体制、設備投資、事務量からも困難であると思われます。現在の体制を維持するのであれば、幼稚園教育の有用性を前面に打ち出し、明確にターゲットを絞った園児募集を行わなければ園児確保はますます困難になっていくように感じました。園の所在地である久松地区は転勤者が多い地域です。転勤族の場合、転勤前から当地の情報を得るには同僚からの聞き取りもありますが、ホームページが大きな手掛かりになります。愛真幼稚園のホームページは大変充実しており、様々な活動内容の紹介もあり興味をそそる内容となっていますが、保護者や卒園児の想いや思い出、愛真幼稚園が如何に素晴らしい幼稚園かということを客観的でかつ興味をそそるような記事を集め盛り込んでみては如何でしょうか？PTAの充実した活動に関しても、更に紹介していただくことを希望します。コロナも含めた災害対応として事業継続計画（BCP：Business Continuity plan）を策定する教育機関も増えてきています。Risk managementの上でも今後策定することをお考えになった方がよいのではと思います。

（鳥取赤十字病院外科部長・救急科部長 山代 豊）

園経営の理念・方針等に関して、「特色ある保育」のキリスト教保育・あそび保育・自然保育など、教育保育プランが明示されているが、その内容の具体化ともいべき「光の子として歩みなさい」等の園長の説明文や図があるとさらに良いと思う。施設・設備については、チャペルホール・ツリーハウス等、園舎の設計配置にすばらしい工夫が見られ、「あそび保育」実践に保護者の協力もあることは素晴らしい。プール・調理器具・安全点検など利用マニュアルも整備されている。日常の教育実践は、幼稚園教育要領の5領域に渡って、園の特色である「あそび保育」の形で計画されている。また、行事が多

彩に工夫・設定されている。こどもは行事によって育つ面があり、大切な活動だと考える。儀式・社会・宗教・健康安全・文化娯楽など、子どもの生活と変化のバランスを考えて設定されている。安全の管理・教育については、日常に起こる問題場面に応じて多くのマニュアルやチェックリストがつくられている。それに応じてヒヤリハット事例も含めた研修活動が実施され、効果を上げているようである。これからも児童の発達段階や興味を踏まえた上で、教職員が互いに補い合う教育実践への改善、充実が期待される。健康・保健の管理・教育については、感染対策や各種検査の実施と日々の指導で保護者の安心感も高まってきている。社会行事と結びつけた指導場面の設定でさらに充実させたい。基本的な生活習慣の確立には、社会性など保護者をも巻き込んだ教職員のリードが必要である。

評価基準の捉え方は種々あろうが、自己評価の厳しさは謙虚さの表れと評価したい。園バス通園の安全など、その都度スピード感をもって対応され、成果もあがっている。園教育の各分野で教育計画が設定されて実施されている。「愛真だより」によれば、保護者の安心や信頼も高まってきているようである。そこには教職員の誠実な教育指導があったはずである。日々の教育実践のなかで、教職員みんなが生き甲斐を持って「チーム愛真」として頑張ってきたものと思う。それらをさらに高めるためには、人間としての児童観・人間観・人生観、宗教・キリスト教などについての研修の機会が、無理のない状態で保障されることが望ましいと思う。

情報発信・提供については、愛真幼稚園の良さ・すばらしさ・特色・持ち味を、一般市民に解って貰う場をもっと工夫してはどうか。「愛真だより」や園行事の案内を久松地区はじめ各地区公民館等々に配布し、ホームページなどAIや情報ネットワークの活用も更に進めたい。また、教職員向けと共に、保護者にも向けた「愛真幼稚園 教育ハンドブック」のようなものを、規格をそろえて作成の方向に進めてはどうか。特別支援教育は、「キリストの愛」を基盤として、「赤十字の人道」など人間教育の基本からの学びがあると推進しやすいと思う。特別な配慮を要する児童への指導は、通常の学級の児童にも関わるものである。幼稚園教育のすばらしさを再認識しながら、時代や社会の動きを視野に入れた新しい時代の幼児教育・保育を生み出す「鳥取の、愛真幼稚園の、子育て支援の姿」を創造して欲しいものである。永年に渡って鳥取を先導してきた鳥取の伝統ある子育て支援施設として、教職員や理事の皆さんのがんばりに期待している。

(元鳥取市立小学校長 安治紘紀)